

羊ヶ丘の植物相

森 田 弘 彦

農林省北海道農業試験場は札幌市の西岡丘陵の北端約千haを占め、試験研究の場であると同時に、札幌市周辺緑地の一部として重要な機能を果たしています。

当場に着任以来、「羊ヶ丘自然愛好会」の観察会などを通して植物相を記録して、現在まで一部栽植樹種を含めて単子葉植物一〇四種、双子葉植物三四三種、裸子植物一七種、シダ植物二九種を確認しま

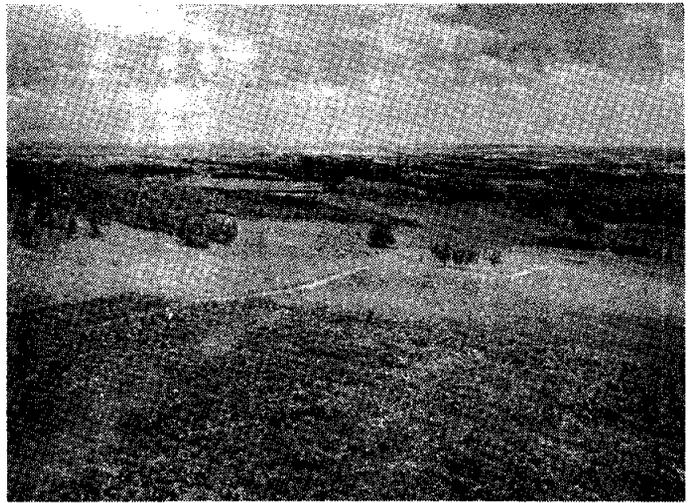
した。そのうち双子葉植物七四科三三八種を「羊ヶ丘植物目録Ⅰ」として、北海道農業試験場研究資料第五号に発表しました。植物分類の専門家ではありませんので同定のミスや記載もれなども多いことを覚悟で、羊ヶ丘の植物相の解明にあたってのタタキ台となれば幸いと思っています。

羊ヶ丘に近いところの植生調査として、館脇操先生の手による野幌国有林（昭和九年）および真駒内

種番場（昭和八年）の植物目録があります。この二つの調査結果と比べてみると、羊ヶ丘の植生の特徴と約四十年間にわたる植物相の変化がよく分ります。羊ヶ丘の植物相がもっと明らかになった時点で、詳しい検討をしてみたいと思っています。次に目録の中から特徴的な点をいくつかご紹介します。

一、新しい帰化植物

昭和四十二年頃、場内の道路沿いの湿った芝生に見なれないヤエムグラ属の一種を発見しました。今回、札幌商業高校の桑原義晴先生を通じて、京都大学の村田源先生に同定をお願いしたところ、これまでに日本で知られていない欧州原産の Great hedge bedstraw (*Galium mollugo* L.) であることがわかりました。日本産ヤエムグラ属の多くが茎・果実・葉に逆刺を持っていますが、本種は葉縁以外に刺は



羊ヶ丘展望台草地より札幌市街を望む

なり、シオンに似た感じで茎に翼があります。花は八月頃で、オオハンゴンソウを小形にした様な黄色の頭状花を沢山つけます。

以上、二種を含めて約六二種の帰化植物（史前帰化植物を除いてある）を確認しました。特に旺盛なものは、オオアワダチソウ、ブタナ、セイヨウタンポポ、キタイモなどですが今後、牧草など新しい帰化植物が増える可能性があります。

二、減少している植物

良好に保たれているようにみえる羊ヶ丘の自然も沢水の涸渇・汚染などが進み、徐々に自然破壊が起きています。この被害は清水を好む水生植物に及んでいます。北大植物園の売店横の池に群生しているヒメカユウを羊ヶ丘の小さな水溜りで見つけましたが、水は汚れて干上り、いまにも絶滅しそうな状態です。またヤチブキといわれるエゾリュウキンカも姿を消しつつあります。これは沢水の汚染と同時に山菜として乱獲された結果でしょう。

一方、エゾタンポポとセイヨウタンポポの競合が見られ、エゾタンポポが奥地へと押し込まれていくようです。

三、ユウガキタ

ユウガキタは本州の青森まで分布（原色日本野外植物図譜・奥山春季）していますが、羊ヶ丘にかなり大きな群落があり、晩秋まで開花し「野菊」の風情を示しています。生育地は試験用の草地や建物のある周囲なので、人為的に本州から持ち込まれて定

着したものと考えられます。「国内帰化植物」ともいうべきものには、この他に海浜植物のハマエンドウも羊ヶ丘に侵入しています。

四、オオウメガサソウ

オオウメガサソウは植物図鑑でも「海に近いやや乾いた林内に稀」と説明されている植物で、日本の分布南限は茨城県北部海岸となっています。羊ヶ丘のミズナライタヤ林の林床で、オオウメガサソウ、ジンヨウイチヤクソウ、ベニバナイチヤクソウ、ミヤマスミレなどが混じった群落を見つけました。

オオウメガサソウは前記の館脇先生の二つの目録には記載されていません。従って羊ヶ丘では、珍しい植物の一つといえましょう。道内ではこれまでに森・千歳（松村任三氏）、函館・虻田（○）（奥山春季氏）、釧路（鮫島惇一郎氏）、樽前山麓（桑原義晴氏）、苫小牧東部（伊藤浩司氏）などで知られています。

この植物を含むイチヤクソウ科は日本で約一三種あり、そのうち六種が羊ヶ丘にあります。特にジンヨウイチヤクソウは高山植物とされており、これが国道三六号線から少し入ったところに群落を作っています。

以上、いくつかの特徴を述べましたが、札幌市の周辺緑地の一つとして羊ヶ丘の自然は大切にされなければならぬと思います。そのために植物目録を作成しましたが、今後さらに充分な内容にしたいと思っておりますので、多方面からのご教示をいただければ幸いです。

（北海道農業試験場）

なく全体に滑らかな感じがするので、「トゲナシムグラ」という和名をつけました。羊ヶ丘への帰化経路はよくわからず、まだ場内の一部にしかみられませんが少しづつ分布を拡げているようです。

また、元北農試畜産部の故関口喜一氏が一九五〇年代にアメリカから蜜源植物として導入試作したキンミツツ、Golden honey plant (Achinomelis squarrosa)も圃場から逸出し、帰化植物といっている状態になっています。植物体は高さ二mくらいに